

## 【 健診項目のご説明 】

身体計測	B M I	体格指数ともいわれ、体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で計算。 標準体重とはBMI=22を指し、25以上は肥満と判定されます。
	腹 囲	臍(へそ)の位置で計測。男性は85cm、女性は90cm以上で内臓脂肪型肥満と判定されます。
循環器	血 圧	血管の中を血液が通るときの圧力で、収縮期血圧(最大)／拡張期血圧(最小)で表します。 140／90以上は高血圧と判定されます。
	心 電 図	身体に電極を付けて、心臓から出る電気信号を読みとり、波形にして記録したものです。 不整脈、心肥大、狭心症、心筋梗塞など心臓の疾患を発見するための検査です。
胸 部		X線(レントゲン)で胸部の写真を撮ります。肺や気管・心臓・胸部の異常を発見するための検査です。
消化器	胃 部	造影剤(バリウム)を飲んで、食道から胃・十二指腸までの写真を撮ります。 臓器の形の変化や異常(潰瘍・ガンなど組織表面の変化を伴うもの)を発見するための検査です。
	ペプシノゲン	食物の消化に関与するペプシノゲンという物質の血中濃度によって胃粘膜の萎縮(慢性胃炎)があるかどうかを調べる検査です。陽性(+)だと胃がんのリスクも高くなります。
	ピロリ菌	血液・便などの検査により胃がんの原因となるヘリコバクター・ピロリ菌に感染していないかを調べます。
腹部超音波(エコー)		腹部に超音波を当て、肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓などの病変を調べるための検査です。 なお膵臓に関しては、腸内のガスや肥満によって超音波が十分に届かず、映像が見えにくいことがあります。 これが「膵臓描出不良」という所見ですが、大きな異常ではありません。1年後に再度検査して、膵臓の状態を確認したいので、C1(1年間要経過観察)という判定をつけています。
尿検査	尿 糖	尿中の糖の有無や量を調べる項目です。腎疾患や高血糖で陽性(+)となります。
	尿 蛋 白	尿中の蛋白質の有無や量を調べる項目です。腎疾患や高血圧で陽性(+)となります。 ただし、健康な人でも疲労などで一時的に陽性(+)になることがあります。
	潜 血 反 応	尿中に血が混ざっているかを調べる項目です。腎臓～尿路の炎症・結石などで出血があると陽性(+)になります。
貧血・多血	赤 血 球 数	血液の主な成分です。赤血球数の減少がみられる場合は、貧血や出血の可能性がありま。
	血 色 素 量	赤血球に含まれており、酸素を肺から各臓器・組織に運ぶ働きがあります。ヘモグロビンとも言われます。 主成分は鉄であり、血色素が少ない場合は鉄欠乏性貧血の可能性がありま。
	ヘマトクリット	血液全体のうち赤血球が占める割合を調べる項目です。 低い場合は貧血、高い場合は多血症や脱水症状の可能性がありま。
肝機能	GOT (AST)	肝臓や心臓・骨格筋・腎臓の細胞内に存在する酵素で、これらの組織に障害・異常があると血液中に放出され、値が上昇します。
	GPT (ALT)	肝臓の細胞内に多く存在する酵素で、GOTとともに高値を示す場合には肝障害が考えられます。 GOTと異なり、肥満によっても増加します。
	γ - GTP	肝臓や胆道(胆嚢と胆管で構成)に異常があると増加する酵素です。 アルコールに敏感に反応する酵素なので、過度の飲酒で肝臓に負担がかかるとすぐに上昇します。
脂質代謝	総コレステロール	HDL、LDLなど血中に含まれるコレステロールの総量を指します。コレステロールは細胞やホルモンを作る材料として必要な脂肪の一種ですが、多すぎると動脈硬化の原因となります。
	HDLコレステロール	善玉コレステロールとも呼ばれます。血液中の余分なコレステロールを肝臓に戻す役割を持つ「掃除係」で、適正な量が存在することにより動脈硬化を抑制します。
	中 性 脂 肪	身体を動かすエネルギー源です。食べ過ぎや運動不足で増加します。 増えすぎると動脈硬化を進める可能性があります。
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールとも呼ばれます。増えすぎると血管に付着して動脈硬化を引き起こす原因となります。
	nonHDLコレステロール	中性脂肪値が高いとLDLコレステロール測定値の信頼性が低くなるという問題点を解消するために、中性脂肪値が400mg/dl以上の場合に悪玉コレステロールの指標として使われることがあります。 (総コレステロール - HDLコレステロール)で算出されます。
膵機能	アミラーゼ	消化酵素の一つで、主に膵臓や唾液腺から分泌されます。 膵臓や膵管に障害・異常があると血液中に放出され、値が上昇します。
	尿 素 窒 素	蛋白質が身体で分解された時に肝臓で生成され尿として排出されますが、腎機能の低下により排泄できないと高値になります。また脱水、外傷などの出血、発熱、蛋白質の摂り過ぎでも数値が高くなります。

腎機能	クレアチニン	代謝に伴う老廃物で、本来は腎臓でろ過されて尿中に排泄されますが、排泄できないと血液中に溜まります。数値が高い場合は腎機能の低下が考えられます。
	eGFR	推算糸球体ろ過量といい、クレアチニン値・年齢・性別から計算される推定値です。腎臓の糸球体で血液中の老廃物を十分にろ過できなくなるCKD(慢性腎臓病)の重症度の目安となります。 なお、腎機能に問題なくても年齢に伴いeGFR値は低下するので、CKDの基準値も年齢により異なってきます。
	尿酸	身体活動で使ったエネルギーの代謝に伴う老廃物です。食べ過ぎ、アルコールの飲み過ぎなどで高くなると、結晶が関節にたまって炎症を起し痛風の原因となるだけでなく、腎尿路結石を引き起こす場合もあります。
血糖	血糖	血液中のブドウ糖のことで、身体を動かすエネルギー源です。糖尿病を判断する基準となります。 当クリニックでは食後時間に応じて判定基準が異なります。 食事を摂ると急速に血糖値は高くなりますが、通常は一時的なものです。 空腹時の血糖が高いのは、肥満や生活習慣の影響が考えられます。遺伝的に高い場合もあります。
	ヘモグロビンA1c	血液中のブドウ糖と赤血球中のヘモグロビンが結合したものです。過去1～2ヶ月の血糖値の状況が分かります。
	便潜血	便に血液が混ざっていないかを調べる検査です。陽性(+)となった場合は消化管(大腸～肛門)で出血している可能性があります。出血の原因としては痔・大腸ポリープ・大腸がんなどがありますが、自覚症状だけでは判断が難しいので、陽性(+)となった場合は精密検査として大腸内視鏡検査を受けて下さい。
	P S A	男性のみが対象となる前立腺がんの腫瘍マーカー(がんの指標の1つ)で、自覚症状がほとんどない初期の前立腺がんを早期発見できる有効な方法です。ただしPSAだけでは前立腺がんの確定診断はできないので、基準値を超えている場合は泌尿器科で精密検査(PSA再検・超音波検査・前立腺生検など)を受けて下さい。